

## －臨時号のお知らせ－

今回の「びわこつうしん」は、新型コロナウイルス感染防止のため取材活動を控え、地域情報の掲載を割愛し、臨時号として発行することにいたしました。

## びわ湖 管理情報トピックス

# 大雨・洪水シーズンへの備え



### 関連情報紹介

「地先の安全度マップ」滋賀県のホームページで河川や用水路などの身近な場所を含めた、「生活の場（地先）」で起こりうる浸水リスクが確認できます。



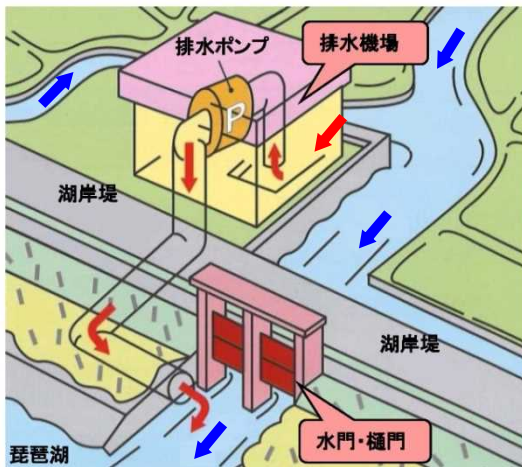
琵琶湖に流れ込む河川は大小460本ほどありますが、琵琶湖から流れ出る河川は瀬田川1本だけです。かつては大雨が降ると琵琶湖の水位が上昇し、琵琶湖周辺の土地の低いところが長時間にわたって水に浸かっていました。

現在では、琵琶湖沿岸の土地の低いところに造った湖岸堤(50.4km)、琵琶湖に流れ込む河川・水路に設置した水門・樋門(137か所)、内陸側の水を排水するために設置したポンプ場(14か所)などにより、琵琶湖沿岸での洪水浸水被害の軽減を図っています。

大雨が降って琵琶湖の水が内陸側へ逆流を始めるような場合には、「内水排除(ないすいはいじょ)」という操作を行います。

## 内水排除操作とは？

平常時河川・水路の水は内陸側から琵琶湖へと流れますが、大雨に伴い琵琶湖の水位が上昇して河川・水路の水位に近づくと河川・水路の水の流れの勢いが弱まります。河川・水路の流れが琵琶湖から内陸側へ逆流し始めたことが確認できたら排水ポンプを動かし、水門・樋門を全閉して内陸側の水を強制的に排水します。こうすることで、内陸側の水位が下がり、低い土地の湛水時間(水につかる時間)が短縮され浸水被害を軽減することができます。これらの一連の操作を内水排除操作といいます。



排水ポンプのはたらき

← 平常時の水の流れ    ← 内水排除時の水の流れ



大同川排水機場



排水ポンプ

## ■琵琶湖の湖岸治水 (湖岸堤・内水排除施設位置図)



排水機場のある場所



## 排水ポンプを動かしても一時的に水に浸かることがあります

水田の浸水被害を軽減するため、浸水時間の短縮を目的として、ポンプ能力を決めています。したがって、強い雨が降ることで、ポンプ能力以上に流域からの流量がある時は、内陸側において浸水することがありますので、ご理解くださいますよう、よろしくお願いいたします。



水田が一時的に浸水